

# 令和8年度(2026年度)「くまもと学校防災月間 ~体制整備編~」

## I 主な取組内容例(全職員で共有)

- 1 ハザードマップ、学校安全計画、危機管理マニュアルの確認及び全職員への周知。
- 2 保護者の安心メール等登録状況の確認・情報発信。
- 3 全職員、全児童・生徒等による避難経路の確認。
- 4 校内安全点検(防火扉・非常階段、棚やロッカーなどの固定等含む)。
- 5 防災担当者の役割分担の明確化。
- 6 雷に関する最新の正確な知識を全職員へ周知。

### 【必要に応じて実施】

#### (管理職等)

- 1 学校版マイタイムラインの作成。  
※引き渡しの判断基準確認 等
- 2 保護者の安心メール等を活用した安否確認訓練。

#### (防災主任等)

- 1 市町村地域防災部局や消防署等との顔合わせ。
- 2 備蓄品の確認・補充。
- 3 防災バッグの回収・確認。
- 4 引き渡しカードの作成・回収。
- 5 通学路点検によるハザード確認。

#### (情報担当職員等)

- 1 防災通信の配布や HP 等による学校防災体制や防災教育の掲載。

### 【引き渡しの判断基準例】

- 通学路に被害が発生していないか
- 地域の被害が拡大するおそれがないか
- 下校の時間帯に危険が迫ってこないか
- 引き渡す保護者にも危険が及ばないか

参考:文部科学省「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 (p81)

1章 危機管理マニュアル  
について (p2~5)

2章 事前の危機管理  
(p6~17)

第5節 事後の対応と学校  
事故対応 (p79~86)

3章 防災対応の段階と  
マニュアル作成のポイント  
(p8~31)



# ～ 年間を通した取組例 ～

## ・危機管理マニュアルの見直し・改善【学校の危機管理マニュアル 作成の手引】

※実際に機能するかどうか訓練等を基に検証し、定期的に見直し・改善を行う。

○人事異動等による分担や組織の変更はないか。

○施設・設備や通学路、児童生徒等の状況に変化はないか。

○地域や関係機関との連携に変更はないか。

○防災避難訓練、研修会等の図上訓練で、問題点や課題の発見はなかったか。

○他校の事例や社会情勢の変化等から、自校に不足している項目はないか。

## ・児童・生徒等や保護者による安全点検の実施【学校における安全点検要領】

○防災士など専門的な知見を取り入れた外部人材等の活用。

○子供の視点やICTを活用。

### →教職員の負担軽減、質の高い安全点検の実現



©2010 熊本県くまモン

安全点検の種類	時 期 ・ 方 法 等	対 象
定期の安全点検	<b>毎学期1回以上</b> 計画的に、また教職員全員が組織的に実施 ※防災士や児童生徒と一緒に確認することも取り入れる	児童生徒等が使用する施設・設備及び防火・防災、防犯に関する設備などについて
	<b>毎月1回</b> 計画的に、また教職員全員が組織的に実施	児童生徒等が多く使用すると思われる校地、運動場、教室、特別教室、廊下、昇降口、ベランダ、階段、便所、手洗い場、給食室、屋上など
臨時の安全点検	<b>必要があるとき</b> ・運動会等の学校行事の前後 ・暴風雨、地震等の災害時 ・近隣で危害の恐れのある犯罪の発生時	必要に応じて点検項目を設定
日常の安全点検	<b>毎授業日ごと</b>	児童生徒等が最も多く活動を行うと思われる箇所について

## ・ローリングストック法による備蓄品等の管理。

※消費期限が近い備蓄品を用いた防災食体験、学校行事における飲料水としての活用等

## 【職員研修】

・落雷事故防止を含めた、学校の実態に応じた防災に関する職員研修。

※雷ナウキャスト、地域のハザードや被災の歴史及び探究型避難訓練等。

・AEDを含む心肺蘇生法実技演習講習会。

・教職員による機能訓練の実施。

## 【引継ぎについて】

〈各学校で作成するもの〉

○学校安全計画

○危機管理マニュアル

○学校防災年間計画(次年度の計画を早めに反映する)

○避難訓練計画

○防災教育の計画及び学習指導(構想)案

〈地域との連携に必要なもの〉

○市町村の防災担当者名及び連絡先等の一覧



©2010 熊本県くまモン